

クラス番号	611	担当教員名	牧 真吉
テーマ	子どもの育ち(特に乳幼児期を中心に)を考える 子どもの行動は自らの体験に基づいていることを知る		
著書・論文	著書・論文 「子どもの育ちをひらく」明石書店 「自閉症スペクトラムの子どもと「通じる関係」を作る関わり方」明石書店 「親と子それぞれの育ちを育む」別冊発達 32 (243～250) ミネルヴァ書房		
研究課題等	研究課題 子どもの育ちの中から予防的な対応を考えること(乳幼児精神保健)		

ゼミナール概要

キーワード：乳幼児精神保健 育ち 地域社会 関係 支え

目的、内容、方法等：

児童相談所で子どもや親と向き合う中から、いろいろな問題に出会ってきた。それぞれの問題を考えていくと結局育ちの問題に突き当たることとなった。育ちは子どものことだけではない。大人にも育っていないからこそ起きてしまっていると考えerことでつきあいやすくなることが多くある。子どもの育ちは子どもだけでなく、大人にとっても大きな影響を与えている。単に子どもの虐待防止という狭い観点ではなく、もっと広く育ちを見ることによって見えてくることが多くある。そうしたことに気がついていくことが第1点。

子どもの育ちについて多くは親の育て方の問題とされてしまった。この観点で育ちをカバーすることはできない。どのような形で社会が子どもを育てていくようにするのか、育ちを考えながら考えていくことが第2点。

育ちの問題を親や家族に限定することでどんな問題が起きているのか

親だけで育てていてうまく育っていない実例を調べる(一般には子ども虐待と言われる)

社会が子どもを育てる機能を失っていった過程を調べてみる

地域社会の中でどのように子育てを包含していくことができるのか

現在行われて知る子育て支援はどんなことがあるのか

どんなことがあったら子育ては少し楽になるのだろうか

昔の子育てはどのように行われていたのか

上記のようなテーマで、文献を調べながら、現場を見て聞いて、思考を積み重ねることを行う。

授業計画：

まずは育ちを理解していくために、皆で資料を読むことをする。また、皆さんがアルバイトで行っているところなどでの出来事を出して、それを育ちの観点から考えることをする。わたしが主催している本学で行っている事例検討会へも積極的に出る。いろいろな事例から育ちを考えることをして、その中からテーマを見つけ出してもらう。

まだ、これから始めていくゼミなので、フレキシブルに対応していくことを考えている。

保育所、児童福祉施設、学校など多くの機関とつながりもあり、そうしたところを見学することも取り入れていく。

担当教員からのメッセージ

児童相談所という現場に長くいることによって、平均から大きく外れている子どもたちにつきあってきました。育ちを考えるのに、平均につきあって考えることもできないわけではないのですが、発達の理解を大きく進歩させたのは、遅れている子どもたちを丁寧に見た結果です。うまく育っていない子どもと丁寧につきあう中から見つけていくことを大切にしたいと思っています。これこそが正しい真理であるということを打ち出すことではなく、わからないこと、変わらないことに息長くつきあうことができる人に集まってもらいたいです。すっきり割り切ってしまうことが性に合わない人、大歓迎します。快刀乱麻を期待する人は避けてください。